

授業科目	言語発達障害Ⅶ (援助法-臨床)				
担当者	川畑武義				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

ST と子どもが遊んでいるセッション場面を見て「子どもさんの課題」と、「ST のかわり方」について検討します。

■ 到達目標

1. 子どもの多様性を理解することができる
2. 子どもに合わせた遊びを考えることができる
3. 子どもの遊び場面から、子どもの能力を評価することができる

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 子どもに関する情報を基に遊びの内容と設定を考える①
- 第3回 子どもに関する情報を基に遊びの内容と設定を考える②
- 第4回 症例の映像を見て記録を取る (行動観察)
- 第5回 症例の所見作成 (個人)
- 第6回 症例の所見作成 (グループワーク)
- 第7回 症例の報告書作成 (グループワーク)
- 第8回 報告書 発表
- 第9回 振り返り、フィードバック
- 第10回 症例の映像を見て記録を取る (検査場面)
- 第11回 症例の所見作成 (グループワーク)
- 第12回 行動観察・各種検査の結果をもとに初期評価をまとめる①
- 第13回 行動観察・各種検査の結果をもとに初期評価をまとめる②
- 第14回 子どもに関する情報を基に遊びの内容と設定を考える①
- 第15回 子どもに関する情報を基に遊びの内容と設定を考える②

■ 評価方法

提出レポート40% 筆記試験60% 両得点の合計で評価を行う。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

演習が多い講義内容となっています。講義内にて適宜、各自で取り組む課題を出す予定です。グループディスカッションを行い、レポートを作成・提出すること。

■ 教科書

書 名：明日からの臨床・実習に使える 言語聴覚障害診断 小児編
 著者名：大塚裕一、井崎基博
 出版社：医学と看護社

書 名：言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編
 著者名：深浦順一・内山千鶴子 編著
 出版社：建帛社

■ 参考図書

■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。